市民・文化観光・消防委員会資料
平成３０年４月２０日
文化観光局

ヨコハマトリエンナーレ 2017 の開催報告について

１　開催概要

(1)　タイトル　ヨコハマトリエンナーレ 2017
「島と星座とガラパゴス」

(2)　会　　期　平成 29 年８月４日（金）
～11 月５日（日）

(3)　会　　場　横浜美術館
横浜赤レンガ倉庫１号館
横浜市開港記念会館地下

アイ・ウェイウェイ（艾未未）《安全な通行》2016、《Reframe》2016
© Ai Weiwei Studio
撮影：加藤健

(4)　作 家 数　38 組１プロジェクト

(5)　来場者数　259,032 人　（有料会場３会場等のべ人数）

(6)　ﾁｹｯﾄ販売　102,527 枚

２　収支見込み（横浜トリエンナーレ組織委員会）

収入	支出	備考
８．９億円 *うち当初横浜市負担金 約４．５億円	７．９億円	入場料及び協賛金の収入増、 経費が抑えられたことによる支出減の結果、 横浜市負担金を１億円返戻しました。

３　報道実績

6,923 件（うち海外：314 件）　※平成 30 年 1 月 31 日現在

＜内訳＞　（単位：件）

テレビ	CATV	ラジオ	新聞	雑誌	WEB	その他
35(6)	1,710(0)	40(0)	571(5)	274(33)	4,111(261)	182(9)

※（　）の数字は、海外の露出件数。内数。

４　パブリシティ効果・経済波及効果

(1)　パブリシティ効果

約 50 億円（前回展：約 52 億円）

報道実績は、WEB を中心に前回展に比べて大幅に増加しましたが、WEB の広告費換算単価が前回に比べて下がったため、パブリシティ効果としては、前回展とほぼ同額となりました。

(2)　経済波及効果（横浜市内）

約 35 億円（前回展：約 23 億円）

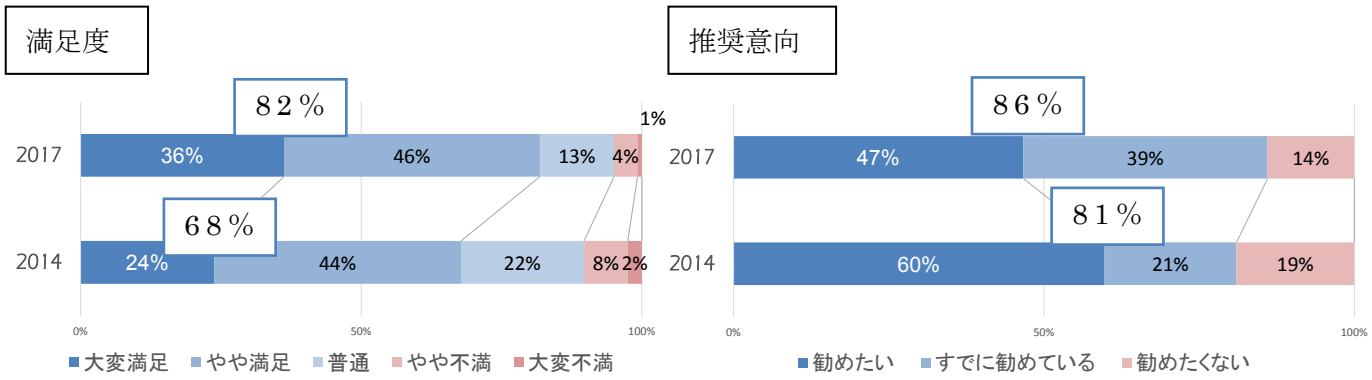
前回展に比べ一人当たりの消費金額が高く、また、実来場者数が増えたため、前回よりも波及効果額が上がりました。

５　アンケート結果

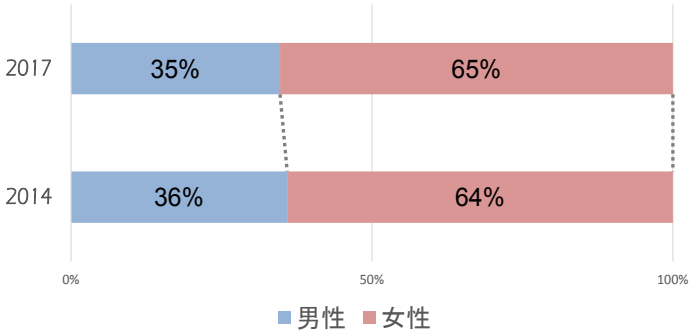
・大変満足、やや満足の合計が 82％と高く、86％の方が家族や友人へ勧めたいという内容でした。

・お客様の層は、女性が 65％、年齢分布は 20～50 代がそれぞれ約 20％前後と、様々な世代の方にご来場いただけました。居住地も市内をはじめ、全国各地から来場いただきました。

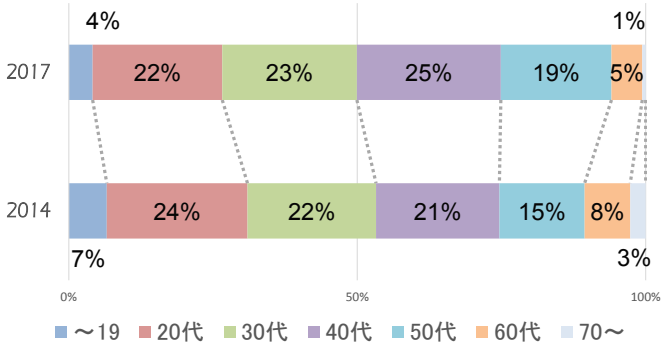
・トリエンナーレへの来場が初めてのお客様が増え、新しい方へのアプローチができました。



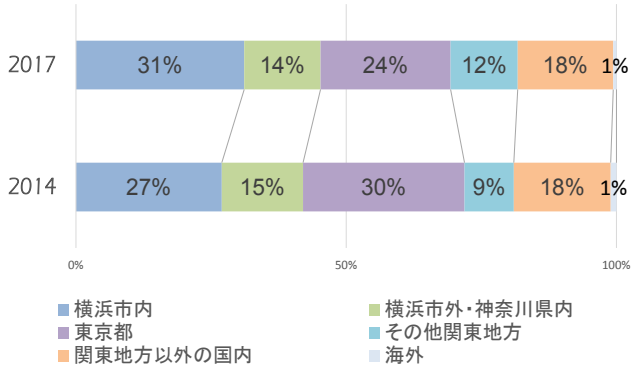
性別



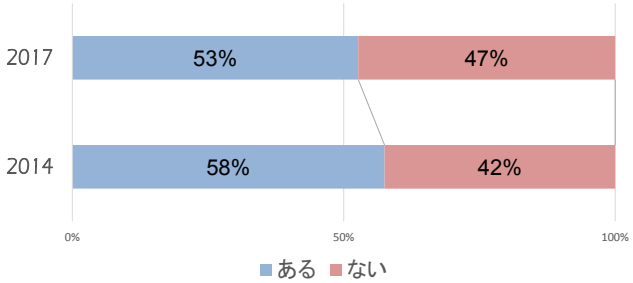
年齢



居住地



来場経験



（有効回答数　2017：1,536 件、2014：1,456 件）

＜参考１＞第１回～第６回開催実績

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
開催年	2001	2005	2008	2011	2014	2017
テーマ	メガ・ウェイブ 新たな総合に向けて	アートサーカス 日常からの跳躍	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか？	華氏451の芸術: 世界の中心には 忘却の海がある	島と星座とガラパゴス
ディレクター	アーティスティック・ディレクター: 河本　信治 建畠　哲 中村　信夫 南條　史生	総合ディレクター: 川俣　正	総合ディレクター: 水沢　勉	総合ディレクター: 逢坂　恵理子 アーティスティック・ディレクター: 三木　あき子	アーティスティック・ディレクター: 森村　泰昌	ディレクターズ: 逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄
会期	9月2日～11月11日 (67日間)	9月28日～12月18日 (82日間)	9月13日～11月30日 (79日間)	8月6日～11月6日 (83日間)	8月1日～11月3日 (89日間)	8月4日～ 11月5日 (88日間)
主会場	[2会場] パシフィコ横浜展示ホール(C,D) 横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] 山下ふ頭3号・4号上屋	[4会場] 新港ピア 日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) 横浜赤レンガ倉庫1号館 三渓園 他無料3会場	[2会場] 横浜美術館 日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) 他無料2会場	[2会場] 横浜美術館 新港ピア	[3会場] 横浜美術館 横浜赤レンガ倉庫1号館 横浜市開港記念会館地下
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組1コレクション	65組	38組1プロジェクト
総入場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人
有料会場入場者数※	約35万人	約16万人	約31万人	約30万人	約21万人	約25万人
うち中学生以下	記録なし	記録なし	記録なし	記録なし	26,381人	26,988人
うち外国人	記録なし	記録なし	記録なし	記録なし	4,501人	7,059人
チケット販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚
サポーター登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人	1,474人 ※2017.11.5時点
サポーター会期中のべ活動数	－	－	－	1,340人	2,449人	3,289人
報道実績	237社以上 (うち海外36社以上) ※掲載件数は記録なし	1,089件 (うち海外40件)	1,233件 (うち海外165件)	1,763件 (うち海外139件)	3,899件 (うち海外117件)	6,923件 (うち海外314件)
パブリシティ効果	－	－	－	約47億円	約52億円	約50億円
経済波及効果	－	－	－	約32億円	約23億円	約35億円

※　有料会場入場者数は、有料会場の延べ入場者数

＜参考２＞３年間の収支報告

〇収入の部　　（単位:円）

項　目	2015年度	2016年度	2017年度（2月末時点）	2017年展　決算見込み（3か年合計）
横浜市負担金	65,000,000	80,000,000	351,500,000	496,500,000
文化庁補助金	0	0	180,000,000	180,000,000
協賛金・助成金	0	600,000	45,798,000	46,398,000
入場料収入	0	0	177,834,000	177,834,000
カタログ等販売収入	5,750	439,404	931,000	1,376,154
その他収入	227,686	86,299	0	313,985
前年度からの繰越金	53,850,031	38,488,932	38,030,439	53,850,031 ※初年度のみ計上
計	119,083,467	119,614,635	794,093,439	956,272,170

〇支出の部

項　目	2015年度	2016年度	2017年度（2月末時点）	2017年展　決算見込み（3か年合計）
展示制作費	15,000	1,214,229	194,429,000	195,658,229
会場設営費	0	0	51,611,000	51,611,000
会場運営費	25,324,000	0	195,122,000	220,446,000
会場間無料バス事業費	0	1,650,153	40,152,000	41,802,153
広報費	691,445	5,700,291	96,016,000	102,407,736
カタログ等経費	0	0	12,156,000	12,156,000
関連行事費	0	768,670	18,709,000	19,477,670
入場券経費	0	0	16,376,000	16,376,000
教育プログラム費	3,738	36,288	1,921,000	1,961,026
ボランティア経費	0	0	706,000	706,000
専門家旅費	276,601	3,781,602	1,652,000	5,710,203
業務委託費	12,564,699	18,864,034	34,299,000	65,727,733
市民協働関連業務委託費	8,000,000	10,000,000	11,058,000	29,058,000
事務局費	33,719,052	39,568,929	72,583,000	145,870,981
翌年度への繰越金	38,488,932	38,030,439	47,303,439	47,303,439 ※最終年度のみ計上
計	119,083,467	119,614,635	794,093,439	956,272,170